

## 未来のシナリオと2030年ビジョンの考え方

## ●須坂市のポジショニング(前提)

これまで: ベッドタウンとして、長野市とともに成長を享受してきた

これから: 長野都市圏全体が縮小し、これまでのように長野市からの恩恵は期待できない

## 最良シナリオ

- **Society5.0時代にふさわしい暮らしやすさと豊かな自然が両立し**、子どもから老後まで、人生100年時代を元気に快適に過ごせる環境が整備されています。
- 須坂市の**雇用の核となる産業**が確立されるとともに、**須坂ブランドの価値**が全国や世界に発信・認知され、**外貨を獲得**しています。
- **地域活動に多様な人材**が関わり、地域が行政の協働のパートナーとして機能しています。また、地域に根付いた文化や伝統が引き継がれています。
- 行政は、長野地域連携中枢都市圏の立地を生かし、広域連携によってカバーする行政サービスと重点的に市内で確保する行政サービスを切り分けながら、**選択と集中による戦略的な投資**により質の高い行政サービスを実現しています。

## 最悪シナリオ

- 財政が悪化に伴って、広域的な行政サービスの合理化が進められ、須坂市内の**暮らしやすさが低下**しています。
- 地域の雇用創出産業がないために、ベッドタウンとして長野市の影響を強く受け、**長野市の規模縮小に伴って、一層人口・産業が流出**しています。
- **地域活動の担い手が確保されず、衰退**していくなかで、地域は協働のパートナーになりえず、行政がカバーしなければならないサービスが拡大しています。人口と産業の流出によって、**税収が一層減少**しているため、**新しい政策に投資することも難しく**なっています。
- 長野市を中心とする広域的な行財政の合理化に受動的に巻き込まれ、**須坂市らしいまちづくりが不可能**になっています。

須坂市独自の強み・魅力を明確にし、それで勝負できる(選ばれる)都市になる必要がある  
⇒「須坂でなければならない何か」とは？

五次総・総合戦略のビジョン

一人ひとりが輝き、磨かれた「ほんもの」の魅力  
健康長寿発信都市「須坂JAPAN」

須坂らしさで、自立・自律のまちとなるために

「須坂VISION2030」のキーワード

## 方向性①: いまある強み・資源を尖らせる

## ➤ 須坂の「暮らしやすさ」を深掘りする

【キーワード】子どもからシニアまで、人生100年時代の健康価値、安心安全な暮らしの基盤となる地域コミュニティ、都市と田舎のバランス…

## ➤ 須坂の「ほんもの」を深掘りする

【キーワード】地に足の着いたていねいなくらし、人々のところに受け継がれた思いや伝統、地域への愛着と献身、おもてなし・ホスピタリティ、学びと向上心による活力、何気ない日常にある幸せ(暮らし価値・暮らし観光)…

## ➤ 優秀なベッドタウンのあり方を深掘りする

【キーワード】中枢都市圏の立地を賢く活用、長野市(都市)とのコントラスト、ちょうどいいコンパクトさ…

## 方向性②: 新産業・イノベーションをおこす

## ➤ 「須坂JAPAN」の概念を異次元アップデートさせ、分野横断でイノベーションの合い言葉とする

## ➤ まったく新しい「須坂X」をつくる